

殺草スペクトラム

(日植調委託試験、及び社内資料より)

| | 発生前処理 (g/m ²) | | | 生育初期処理 | | |
|--------------|------------------------------|-----|-----|--------|-----|-----|
| | 0.2 | 0.3 | 0.4 | 0.2 | 0.3 | 0.4 |
| イネ科 | | | | | | |
| スズメノカタビラ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| メヒシバ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| アキメヒシバ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| コメヒシバ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| キク科 | | | | | | |
| アレチノギク | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ◎ |
| オオアレチノギク | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| ヒメムカシヨモギ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| タビラコ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| トキンソウ | △ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ |
| ウラジロチチコグサ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ナデシコ科 | | | | | | |
| ハコベ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| オランダミミナグサ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ツメクサ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

表示 ◎:0~10%, ○:11~40%, △:41~70%, ×:71~100%

芝草に対する安全性

試験場所:理研グリーン・グリーン研究所 試験圃場

●春期処理(2000年4月)

| | 0.2g/m ² | 0.3g/m ² | 0.4g/m ² | 0.8g/m ² |
|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| コウライシバ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ノシバ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| パーミューダグラス | ○ | ○ | ○ | — |

●秋期処理(2000年10月)

| | 0.4g/m ² | 0.8g/m ² | 1.2g/m ² |
|-----------|---------------------|---------------------|---------------------|
| コウライシバ | ○ | ○ | ○ |
| ノシバ | ○ | ○ | ○ |
| パーミューダグラス | ○ | ○ | ○ |

表示 ○:薬害なし、△:薬害あり、×:枯死、—:データなし

日本芝、パーミューダグラスへの高い安全性が確認されています。
・寒地型芝草へは強い薬害が発生するので使用しないで下さい。

適用雑草と使用方法

2019年1月末現在

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 使用量 | | 本剤の使用回数 | 使用方法 | カフェンストロールを含む農薬の総使用回数 | レナシルを含む農薬の総使用回数 |
|-------------|-------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|---------|--------|----------------------|-----------------|
| | | | 薬量 | 希釈水量 | | | | |
| 日本芝 | 一年生雑草 | 雑草発生前～発生初期(3葉期まで)(芝生育期) | 0.2～0.4g/m ² | 200～300ml/m ² | 2回以内 | 全面土壌散布 | 2回以内 | 2回以内 |
| 日本芝(こうらいしば) | ヒメクグ | 春夏期芝生育期(ヒメクグ発生前～発生初期) | | | | | | |

⚠ 効果・薬害等の注意

- ・ヒメクグに使用する場合は、1回目はヒメクグ発生前に散布し、反復処理をする場合はヒメクグ発生前から発生初期に散布してください。なお、発生初期のヒメクグに対しては、低薬量では効果が劣る場合があるので、所定範囲の高薬量で使用してください。
- ・ヒメクグに対して反復処理する場合の散布間隔は約1ヵ月を目安にしてください。
- ・本剤は雑草の発生前から発生初期に有効なので、時期を失ないように散布してください。
- ・砂土、水はけの良い土壌では薬害が生じる恐れがあるので使用を避けてください。
- ・散布薬液の飛散、あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分に注意して散布してください。
- ・ターフを形成した日本芝に使用し、ペントグラスなどの寒地型洋芝では薬害が生じるのでかからないように注意してください。
- ・蚕に影響があるので桑にかからないように注意してください。
- ・水源地等に本剤が飛散・流入しないように十分注意してください。
- ・使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ・散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、空袋は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- ・使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

⚠ 安全使用上の注意

- ・本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- ・散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手洗、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- ・作業時に着用していた衣類等は他のものとは分けて洗濯してください。
- ・かぶれやすい体質の人は取扱に十分注意してください。
- ・公園等で使用する場合には、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係ない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう留意してください。

保 管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管。

魚毒性：本剤は藻類に影響を及ぼすので、河川等に飛散、流入しないように注意してください。

- ★使用前にラベルをよく読む。★ラベルの記載以外には使用しない。★小児の手の届くところに置かない。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。空袋は圃場などに放置せず適切に処理すること。

緑をつくり、育て、守る。

製造販売元 **株式会社 理研グリーン**

〒110-8520東京都台東区東上野 4-8-1 TIXTOWER UENO 8階
TEL.03-6802-8571 FAX.03-6802-8577 http://www.rikengreen.co.jp

理研グリーンパートナーシップ

札幌駐在 TEL.011-595-7401 FAX.011-595-7402 大阪支店 TEL.06-6871-1691 FAX.06-6871-1811
仙台支店 TEL.022-222-9599 FAX.022-267-6505 福岡営業所 TEL.092-752-8391 FAX.092-752-8392
東京支店 TEL.03-6802-8943 FAX.03-6802-8953 かんぽ研究所 TEL.0538-58-1282 FAX.0538-58-1714
静岡支店 TEL.054-283-0691 FAX.054-291-4261 福田工場 TEL.0538-55-5108 FAX.0538-55-5104
名古屋支店 TEL.052-218-3060 FAX.052-218-3061

S2019.2

芝生用除草剤

理研 **Wavelle**[®]
顆粒水和剤

カフェンストロール・レナシル水和剤

製品規格:500g×10袋

®:クマイイ化学工業(株)登録商標

理研ウェーブフル顆粒水和剤は、高い土壌処理効果と日本芝への安全性に定評のあるカフェンストロールと殺草スペクトラムの広いレナシルを有効成分とする、使い勝手のよい土壌処理型除草剤です。

理研ウェーブフル顆粒水和剤の特長

1. 低薬量で優れた効果を発揮

少ない投下薬量でスズメノカタビラやメヒシバなどの一年生雑草やヒメフグも効果的に防除します。

2. 幅広い処理適期

有効成分カフェンストロールとレナシルの抜群の相性によって、発生前から生育初期の雑草まで卓効を示します。

3. 日本芝に対する高い安全性

コウライシバ及びノシバに高い安全性が確認されています。

4. 溶け易い顆粒製剤

粉立ちが少なく、さっと溶ける顆粒水和剤なので、作業性が良く、汚れの心配もありません。

成分および性状

- 種類名：カフェンストロール・レナシル水和剤
- 性状：類白色水和性細粒
- 有効成分の種類及び含有量：
 - N,N-ジエチル-3-メシチルスルホニル-1H-1,2,4-トリアゾール-1-カルボキサミド (PRTR・1種148) ……45.0%
 - 3-シクロヘキシル-5, 6-トリメチレンウラシル ……25.0%
- その他の成分の種類及び含有量
 - 鋳物質微粉、界面活性剤等 ……30.0%

安全性データ(製剤)

- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)
 - 急性経口(ラットLD₅₀) : >2000mg/kg
 - 急性経皮(ラットLD₅₀) : >2000mg/kg
- 魚毒性：
 - コイ LC₅₀(96時間) : 3.62mg/ℓ
 - オオミジンコ EC₅₀(48時間) : 1.46mg/ℓ
 - 藻類 EC₅₀(72時間) : 0.00128mg/ℓ

理研ウェーブフル顆粒水和剤の除草効果

①スズメノカタビラの葉齢別除草効果試験(室内試験)

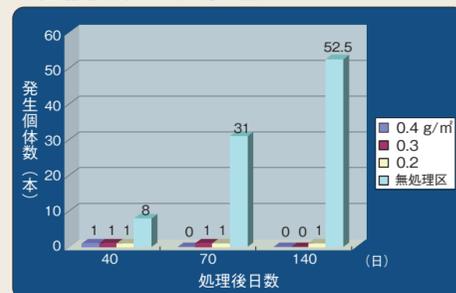


●温室試験の結果、理研ウェーブフル顆粒水和剤はスズメノカタビラに対して発生前から生育初期まで高い防除効果を示しました。

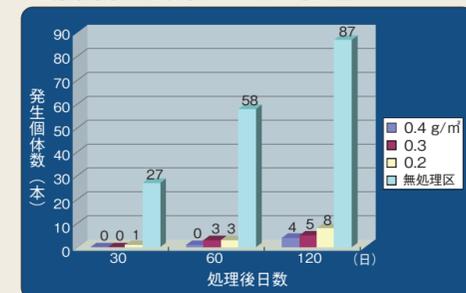
(株理研グリーン・グリーン研究所)

②スズメノカタビラに対する除草効果(秋季圃場試験)

●発生前処理(2000年9月13日)



●生育初期処理(2葉期:2000年10月24日)

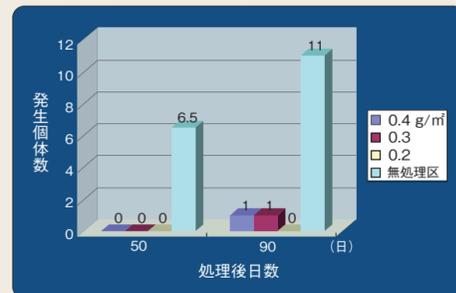


●圃場試験において、スズメノカタビラの発生前から生育初期(2葉期)に対して高い効果を示しました。

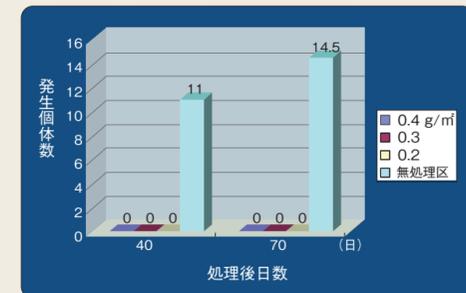
(株理研グリーン・グリーン研究所)

③メヒシバに対する除草効果(圃場試験)

●発生前処理(2003年4月17日)



●生育初期処理(1~3葉期:2003年5月13日)



●圃場試験において、メヒシバの発生前から生育初期(1~3葉期)に対して高い効果を示しました。

(株理研グリーン・グリーン研究所)

委託試験成績(抜粋)

●コウライシバ

| 試験場所 | 処理日 | 調査日 (処理後日数) | 薬量 | 主要雑草残草量 | | | 主要雑草 | 被害 |
|-------|----------------|----------------|--------|---------|--------|--------|---------------------|----|
| | | | | イネ科 | 広葉 | 合計 | | |
| 東日本G研 | 4月10日 発生前 | 7月10日 (91) | 無処理 | 12g | 26.4g | 38.4g | メヒシバ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 7.5% | 4.9% | 5.7% | アキメヒシバ | 無 |
| | | | 0.3 | 1.7% | 4.2% | 3.4% | ヤハズソウ | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 3.4% | 2.3% | ウラジロチチコグサ コニシキソウ | 無 |
| 東日本G研 | 5月2日 生育初期 | 7月10日 (69) | 無処理 | 12g | 26.4g | 38.4g | メヒシバ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 0% | 4.2% | 2.9% | アキメヒシバ | 無 |
| | | | 0.3 | 0% | 3.4% | 2.3% | ヤハズソウ | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 2.7% | 1.8% | ウラジロチチコグサ コニシキソウ | 無 |
| 美野里GC | 9月28日 発生前 | 3月19日 (172) | 無処理 | 13.8g | 19.2g | 33g | スズメノカタビラ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 0% | 19% | 11% | オランダミミナグサ | 無 |
| | | | 0.3 | 0% | 12% | 7% | オオイヌノフグリ | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 2% | 1% | | 無 |
| 西日本G研 | 10月21日 生育初期 | 2月5日 (106) | 無処理 | 588.6g | 115.1g | 703.7g | スズメノカタビラ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 1% | 0% | 1% | マメカミソレ | 無 |
| | | | 0.3 | 1% | 0% | 1% | オランダミミナグサ | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 0% | 0% | アレチノギク類 | 無 |

●ノシバ

| 試験場所 | 処理日 | 調査日 (処理後日数) | 薬量 | 主要雑草残草量 | | | 主要雑草 | 被害 |
|-----------------|----------------|----------------|--------|---------|-------|-------|-----------|----|
| | | | | イネ科 | 広葉 | 合計 | | |
| 久山CC | 3月25日 発生前 | 7月31日 (98) | 無処理 | 14.7g | 6.3g | 21g | メヒシバ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 10.2% | 15.9% | 11.9% | コニシキソウ | 無 |
| | | | 0.3 | 2% | 4.8% | 2.9% | ヤハズソウ | 無 |
| | | | 0.4 | 1.4% | 3.2% | 1.9% | キク科 | 無 |
| 門司GC | 5月15日 生育初期 | 8月31日 (77) | 無処理 | 41.4g | 10.5g | 51.9g | メヒシバ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 0% | 0% | 0% | ヤハズソウ | 無 |
| | | | 0.3 | 0% | 0% | 0% | | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 0% | 0% | | 無 |
| 植調研究所 (美浦GC) | 10月11日 発生前 | 3月27日 (167) | 無処理 | 39g | 150g | 189g | スズメノカタビラ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 0% | 0% | 0% | オランダミミナグサ | 無 |
| | | | 0.3 | 0% | 0% | 0% | ハコベ | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 0% | 0% | ナズナ | 無 |
| 花屋敷GC | 10月23日 生育初期 | 1月23日 (92) | 無処理 | 2g | 2.2g | 4.2g | スズメノカタビラ | 無 |
| | | | 0.2g/㎡ | 0% | 14% | 7% | オランダミミナグサ | 無 |
| | | | 0.3 | 0% | 0% | 0% | ハコベ | 無 |
| | | | 0.4 | 0% | 0% | 0% | | 無 |

樹木に対する安全性

試験場所：株理研グリーン・グリーン研究所 試験圃場

| 樹種 | 0.4g/㎡ | 0.8g/㎡ | 調査 |
|-----------|--------|--------|------|
| オオムラサキツツジ | 影響なし | 影響なし | 20日目 |
| サンゴジュ | 影響なし | 影響なし | 20日目 |
| ウメ | 影響なし | — | 60日目 |
| ネズミモチ | 影響なし | — | 60日目 |
| カナメモチ | 微 | 弱 | 20日目 |
| アベリア | 影響なし | — | 60日目 |
| クロマツ | 影響なし | — | 60日目 |
| ハイバクシン | 影響なし | 影響なし | 57日目 |
| シバザクラ | 微 | 弱 | 57日目 |
| セイヨウキヅタ | 影響なし | 影響なし | 40日目 |

周辺樹木に対する影響は直接散布しない限り、少ないと考えられますが、散布液が直接茎葉部へ付着した場合、樹種や時期によっては黄化や褐変が生じる可能性がありますのでご注意ください。

(—は試験データが無いことを示す)